

オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く(71)(HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(71)—

1. 始めに

前報(70)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

前報(9)から、アース関係が仮想アース Crystal E の導入(7)で報告のとおり、仮想アース Crystal E の追加とアース専用ケーブル Clone 2 が加わっていますが、LINN LP-124 のシステムに関係するのは、ZANDEN Model120 のアースケーブルが Western の撚り線から Clone 2 に代わっていることです。

加えて、仮想アース Crystal E の導入(15)で報告しましたように、スピーカーケーブルの結線に自作の仮想アースを接続しています。

音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回は、弦楽協奏曲です。

メロディア 02953-54

モーツアルト

ヴァイオリン、ヴィオラ、オーケストラの協奏交響曲 E-flat Major

アイネクライネナハトムジーク G Major

ヴィクトル・ピカイゼン(ヴァイオリン)

イゴール・オイストラッフ(ヴィオラ)

イゴール・オイストラッフ指揮モスクワフィルハーモニー交響楽団

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

メロディア盤ということで、TELDEC、逆相、第4時定数 Mid で聴いていきます。

ソ連時代のメロディアレーベルのオリジナル盤です。

ヴァイオリンとヴィオラの二重協奏交響曲はお馴染みの曲で、レンジも広くありませんし、盤質もほどほどですが、ヴァイオリンとヴィオラの演奏は伸び伸びと輝かしい音で演奏されていますし、モスクワフィルのアンサンブルも、しっかりした演奏です。

お馴染みのアイネクライネナハトムジークも生き生きとした演奏です。

3. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレーク、Crystal E の導入の交換などの総合的な効果として、音質的にはさほど優れてはいませんが、ヴァイオリンとヴィオラの演奏とモスクワフィルのアンサンブルの演奏の雰囲気はよく伝わってきます。

以上